

市議団ニュース

木村奉憲 22-8567、杉野 修 58-9010
石田利春 52-7260、渡辺昌代 21-9058

鷺宮地域子育て支援センターが開所しました



テープカットする田中市長と上條議長。

総事業費 8500 万円 太陽光発電(5.5kw/h)が設置され室内の照明は全て LED です。雨水貯蓄タンク(200ℓ)も設置されています。



5月1日、鷺宮地域子育て支援センターの開所式が開催されました。場所は久喜市鷺宮2丁目、旧鷺宮町立保育所の跡地です。久喜市ファミリーサポートセンター鷺宮が併設しています。また鷺宮中央学童クラブも隣接しています。

支援センターでは未就学児の親子が月曜日・金曜日まで利用でき、職員に相談することや、行事に参加することが出来ます。団体に利用することも出来ます。

久喜市内11か所目となる支援センターですが、これから多くの親子のみなさんに利用していただき、内容も充実されることを期待します。(問い合わせは子育て支援課まで)

久喜市でも公契約条例を

4月18日、全国で初めて「公契約条例」を制定した千葉県野田市の根本市長の話を聞くことができました。

野田市の公契約条例では、①市が発注する事業の相手方で働く労働者の最低賃金を決める。②継続雇用を確保する。③下請け業者への適正な請負額を確保する。④条例適用契約額を下げる。などの独自の工夫が見られた。根本市長は「市が契約する公共事業でワーキングプアが生まれてはいけないと思った。より多く労働者の生活を市として守りたかった。」と制定の理由を淡々と述べられました。実に自治体を預かる首長としての自覚と決意あふれる哲学に、ただただ感心。



住宅街を走る
大型トラック

記事とは無関係です

最近、報道のように全国各地での危険運転による交通事故が相次いでいます。加害者側の原因理由は、さまざまです。しかし、通学時に青信号の横断歩道を渡っていて後ろから車が出たなど、避けることと自身が不可能の場合もあります。同様の事故が久喜市で起こらないとは言いがちありません。まずは「安全チェック」が必要です。特に、子どもたちが毎日通う通学路は、安全整備を十分におこなうべきです。もう一度みながら現地を歩いてみましょう。ガードレールなど必要なところをチェックして市に、そして議会に要望を。

通学路の安全を検証しよう

『危険運転』からこどもを守れ

本会議の中継

「議会改革」

・議会の公開・

代表者会議(4月27日)で検討されていた議会インターネット中継について、24年度予算で計上されている1516万円を基本に配信することが、合意されました。カメラ3台でライブと録画配信ができるように専門業者に依頼します。

今年11月議会でテストランを行い、来年2月議会で本番の運びとなります。これにより、市議会の様子を広く市民に公開し、より開かれた議会の推進が図られることとなります。

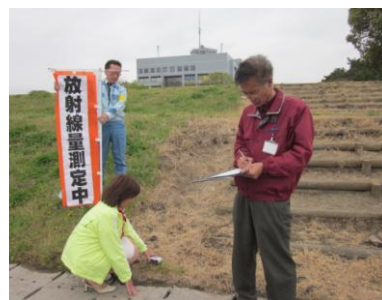
・委員会の所管範囲の変更・

また、代表者会議で検討されてきた常任委員会の所管範囲について「環境と経済」の事項を従来の環境建設水道常任委員会から文教常任委員会に移すことになったため、名称も「建設上下水道常任委員会」に変更。文教常任委員会は「教育環境常任委員会」へと名称が変更されます。

なお、総務財政市民常任委員会と福祉健康常任委員会はそのままです。(6月議会から)

放射能測定結果（久喜・菖蒲地区）

4月21日実施の



福島原発事故の収束は先が見えず、現在も放射能が放出されています。放射線量の測定は継続して調査をする必要があります。市議団は、4月21日、旧久喜・菖蒲地域の中で、子ども達が遊ぶ場所や、市が測定していない地域などを中心に測定を実施しました。

一部で0.2μSv/hと高い値が検出され継続的な測定をする必要があることを再認識しました。以下調査データを報告します。

	測定場所・高さ		地表から5cm	地表から1m
久喜地域	山下公園	ブランコ下	0.070	0.074
		池の中	0.064	0.054
		公園入口	0.168	0.123
	吉羽公園	すべり台	0.089	0.082
		グラウンド	0.094	0.087
		杉の木根元	0.158	0.141
	大浦公園	階段下	0.082	0.083
		ブランコ下	0.083	0.064
		ベンチ下	0.117	0.114
菖蒲地域	菖蒲公園	夏の想いで(像下)	0.079	0.081
		公園 砂場	0.075	0.077
		樹木の下	0.097	0.095
	ラベンダー公園	入口階段下	0.213	0.184
		グラウンド内	0.087	0.081
		ラベンダー畑	0.091	0.090
	弁天沼	池の淵(畑より)	0.093	0.090
		池の淵(西側)	0.129	0.128

市民に望まれる公共交通デマンドバスを

デマンドバス視察研修報告 久喜市が学ぶことは何か

党久喜市議団では、北本市デマンドバスと加須市騎西地区のデマンドバス（ふれあいタクシー）の視察研修を行いました。（前号参照）

これから導入を考えている久喜市が学ぶべきことは何かを考えてみました。

市民にとってなくてはならない公共交通

北本市も、加須市騎西地域もデマンド方式は市民生活に定着しており、受付をするオペレーターの方も、「高齢者の方にとって今やなくてはならない足ですね。」と語っています。

久喜市にも是非とも取り入れるべき「公共交通」であると感じました。

災害時でも走る

地域の交通網

騎西地域では、利用する方が家が瞬時に確認でき、電話で依頼受付を完了するのに1分とかからない速さでした。又、昨年の震災でシステムがダウンしても、対応できると話されていたのには驚きました。

（東京大学のソフト使用）

受付予約時間は

利用率にも影響が

北本市と騎西地域を比較したときの、大きな違いは、北本市の場合自宅から目的地に行き、帰りも利用する率は約3分の1の利用にとどまっているのに対し、騎西地域はほとんどの人が帰りも利用していることと、「往き」は車一台につき、1人から2人と少ないが「帰り」の時は6人の時もあることです。

この違いはどこから来るのか考えてみると、北本市は予約が1時間前まで受付であることや近くに路線バスなどの公共交通が網羅されている点が考えられます。騎西地域のふれあいタクシーは30分前まで受け付けが可能で、予約申し込みから利用するまでの時間が短く、利便性が高いことが考えられます。



地元のタクシー事業との共存や街の活性化に結びつけるには

デマンドバス導入の課題として、地元のタクシー会社との共存をどう作り上げていくかが上げられますが、予約時間が一定の時間必要なことで利便性に差を設けていることや、地元のタクシー会社にデマンドバスを委託することなどが考えられます。

騎西商工会ではスタンブ2冊800円相当でふれあいタクシー回数券11枚を交換するなどの取り組みをしています。

加須市では新たなコミニティバスの運行計画

全市を結ぶシャトルバスの

運行も必要

加須市では今年の10月から合併した市内で「デマンド型乗合タクシー」を3つのエリアに分け運行する計画です。同時に新加須市の両端結ぶシャトルバスを走らせることです。

久喜市でも学ぶべき点があると考えます。